


 雷・大気光カメラのセンサー部(上)  
エレキ部(下)

## 「あかつき」金星周回軌道投入 成功

金星探査機「あかつき」が金星を回る軌道に入ったと12月9日に発表されました。今後、楕円軌道を徐々に小さくし、来年春から本格的な観測が始まります。日本初の惑星探査となるこの観測は、金星の大気の謎を解明することが目的です。太陽からの距離や大きさが地球に近く、地球の双子星と言われてきた金星ですが、その環境は高温の二酸化炭素の大気に濃硫酸の雲が浮かぶなど、地球とはまったく異なります。この違いの原因が分かれば、地球の誕生や気候変動などの解明の手掛かりとなる重要な観測です。

当社は、搭載された6種類の観測機器のうち、金星の雷の放電状況と、超高層大気の発光現象を観測する雷・大気光カメラ(LAC)を開発しており、今後の金星探査の成果に期待しています。

(担当: 宇宙防衛事業部)



気象観測機器の設置作業

## 関東鉄道様に気象・地震観測システム納入

関東鉄道常総線沿線の5カ所に気象観測システム、2カ所に地震観測システムを納入しました。

気象、地震観測システムでそれぞれに観測されたデータは、指令所に伝送されます。ここで、気象観測システムで観測される風向、風速、雨量データのうち、風速、雨量が規定値を超えた場合、徐行運転や運転中止などの判断に利用されます。

また、地震観測システムのデータは、検知した震度が規定の値に達した場合に、運転中止や点検の要否判定などに利用されます。

常総線は、9月の豪雨による鬼怒川の氾濫で、レールの土台が流されたり、線路が曲がったりするなどの被害を受けました。納入した気象・地震観測システムが、これら被害につながる気象変動を観測し、常総線の安全運行を支えています。

(担当: 関東支店)



アジア・太平洋宇宙機関会議会場



超小型衛星用恒星センサー

## アジア・太平洋宇宙機関会議に出展

12月1日から4日まで、アジア・太平洋宇宙機関会議 (Asia-Pacific Regional Space Agency Forum: APRSAF-22) がインドネシアのバリ島で開催され、IHI宇宙開発事業推進部、IHIエアロスペース、明星電気が合同で出展しました。

この会議は、アジア太平洋地域における宇宙利用の促進を目的として、各国の宇宙活動や将来計画に関する情報交換および具体的な協力活動に向けた議論を行う国際会議で、日本、インドネシアなど各国の宇宙機関関係者が参加しています。

明星電気からは、超小型衛星用恒星センサー本体、ポスター、カタログを展示し、小型衛星機器について、多くのご質問をいただきました。

今後も、IHIグループと連携して東南アジア地域を含め、事業拡大に注力していきます。

(担当: 宇宙防衛事業部)

## Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。